

カーバムナトリウム塩液剤 キルパー	取扱メーカー： サンケイ，日本曹達 原体メーカー： バックマン
成分： カーバムナトリウム塩……………33.0%	性状： 黄色水溶性液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

●有効成分が土壤中で速やかに分解し，ガス化して土壤間隙に広く拡散することにより，安定した効果を発揮する。

●土壤センチュウの種類に関係なく有効で，多くの土壤病害にも高い防除効果がある。

●畑作雑草のイネ科，非イネ科を問わず，被覆処理により抑草効果もある。

●刺激臭が比較的少なく，消防法上の危険物にも該当しないので，使いやすい土壤消毒剤である。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●効果を十分に発揮させるために，処理前に前作物の残渣はできるだけ取り除く。

●耕起，整地は丁寧に碎土を十分に行う。

●処理時の土壤水分は，土を握って放すと割れ目ができる程度が適当であるので，土壤が乾燥している場合は十分に灌水する。

●地温が10℃以下の時，重粘土質で通気の悪い土壤，土壤水分が多すぎる場合などは葉害が出易いので，ガス抜きを2回実施し，植え付けを少なくとも7日程度遅らせる。

●土壤注入する場合は注入間隔をできるだけ狭くする。

●センチュウ類防除に使用する場合は，注入した後，被覆又は覆土・鎮圧し10～24日間経過してからは種又は定植する。

●気温の上昇する時期に注入する場合は，注入後直ちに被覆資材等で被覆する。

●土壤病害防除及び雑草防除の場合などは，処理後必ず被覆資材等で7日から14日間被覆した後さらに3～10日間経過してからは種又は定植する。

●あらかじめ被覆した内で土壤表面散布する場合は，被覆期間は7～21日間とし，被覆除去後に3日間以上経過してからは種又は定植する。

●土壤に散布混和する場合は，処理後直ちに被覆する作業体系で実施する。その際，所定量を水で3倍程度に希釈して散布すると圃場に均一に散布できる。

●施設で灌水装置による処理を行う場合は，次のことを守る。

○水平型灌水チューブ又は点滴灌水チューブを使用し，灌水チューブ間隔は30～50cmにする。灌水前に灌水チューブ等の灌水設備は農業用被覆資材等であらかじめ被覆する。

○処理前の圃場は過剰散水による過湿はさける。

○所定量の水希釈溶液を処理した後，直ちに1～2mm降雨程度散水する。

○液肥やクロロピクリンとの混用はさける。

○薬剤注入装置（液肥混入器等）をハウスの外部に設置する。

○薬剤処理中はハウスに入らない。また薬剤処理終了後は散水及びハウス側面の開放を行い，十分に換気した後に入室する。

○ほうれんそう，きゅうり，すいか，トマト，ミニトマト，いちご，さやえんどう，実えんどう，たまねぎ，ねぎ，あさつき，わけぎ，なす，ピーマン，とうがらし類，メロン，花き類，観葉植物の場合は100倍程度の希釈割合を目安とする。しょうが，みょうが（花穂・茎葉），にらの場合は30～100倍の範囲より選択する。

○灌水チューブへの薬剤送入には液肥混入器を用いるか，貯水用タンクに水希釈溶液を入れ灌水ポンプにより送水する。

●花き類・観葉植物に使用する場合，フザリウム菌及びリゾクトニア菌による病害に対し効果があり，同じ病名であっても病原菌が異なるものもあ

るので注意する。

●かんしょ、きく等挿し苗で定植する作物に使用する場合は、葉害を生じるおそれがあるので、被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分にします。

●たまねぎ菌床土に土壤表面散布する場合、水で5～20倍程度に希釈し、15～20cmの高さに積み上げた土壤表面に均一散布し、農業用被覆資材等で被覆する。

●古株枯死、病害虫の蔓延防止に使用する場合は、次のことを守る。

○水希釈割合は次を一応の目安とし、圃場土壤水分状態を考慮して適宜増減する。

①きゅうり、トマト、ミニトマト、いちご、なす、花き類・観葉植物に使用する場合は、50～100倍程度を目安とする。

②ピーマン、とうがらし類、メロンに使用する場合は、50倍程度を目安とする。

③にら、にら（花茎）に使用する場合は、30～100倍程度を目安とする。

○きゅうり、トマト・ミニトマト、ピーマン・とうがらし類、メロン、いちご、にら・にら（花茎）、なす、花き類・観葉植物の古株枯死に使用する場合は被覆期間は3日間（25℃以上）～7日間（10℃）を目安とする。

【薬効・薬害等の注意】

●本剤使用後の器具の金属部分は腐食される場合があるので、十分に水洗する。

●クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤とは化学反応を起こし、発熱するので、クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤使用後の器具は石油で十分洗ってから、本剤を使用する。また、本剤が残っているところにこれらの他剤を加えることのないよう注意する。

●適用作物の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●施設で使用する場合は、施設内に作物があると、薬害を生じるおそれがあるので、使用しない。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

●苗床土に土壤表面散布の際は、吸収缶（活性炭入り）付き全面面体防護マスクを着用する。処理後のシート除去の際にも着用する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害虫・雑草名	10a当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
みずな	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	60ℓ	は種又は定植の 10日前 まで	1回	所定量の薬液を土壤表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	1回
	一年生雑草				所定量の薬液を土壤中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
ほうれんそう	株腐病 立枯病 ホウレンソウケナゴカナダニ 一年生雑草				所定量の薬液を土壤表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	萎凋病 一年生雑草				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壤表面に散布又は灌水する。 所定量の薬液を土壤中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
ね ぎ わ け あ さ つ き	白絹病 一年生雑草	40 ℓ	は種又は 定植の 10 日前 まで	1 回	所定量の薬液を土壌 中約 15cm の深さに 注入し直ちに被覆又 は覆土・鎮圧する。	1 回
	黒腐菌核病	60 ℓ			所定量の薬液を土壌 表面に散布し、直ち に混和し被覆する。	
	白絹病 一年生雑草				予め被覆した内で、 所定量の薬液を水で 希釈し土壌表面に散 布又は灌水する。	
	根腐萎凋病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌 表面に散布し、直ち に混和し被覆する。	
き ゆ う り	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	40～60 ℓ	所定量の薬液を土壌 表面に散布し、直ち に混和し被覆する。			
	つる割病 一年生雑草		予め被覆した内で、 所定量の薬液を水で 希釈し土壌表面に散 布又は灌水する。			
	つる割病 ネコブセンチュウ 一年生雑草		所定量の薬液を土壌 中約 15cm の深さに 注入し直ちに被覆又 は覆土・鎮圧する。			
す い か	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40 ℓ	は種又は 定植の 15 日前 まで		予め被覆した内で、 所定量の薬液を水で 希釈し土壌表面に散 布又は灌水する。	
	つる割病 一年生雑草	60 ℓ			所定量の薬液を土壌 表面に散布し、直ち に混和し被覆する。	
か ぼ ち や	立枯病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌 中約 15cm の深さに 注入し直ちに被覆又 は覆土・鎮圧する。	
メ ロ ン	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40 ℓ			予め被覆した内で、 所定量の薬液を水で 希釈し土壌表面に散 布又は灌水する。	
	黒点根腐病	80 ℓ			所定量の薬液を土壌 中約 15cm の深さに 注入し直ちに被覆又 は覆土・鎮圧する。	
だ い こ ん	バーティシリウム黒点病 ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40～60 ℓ			所定量の薬液を土壌 中約 15cm の深さに 注入し直ちに被覆又 は覆土・鎮圧する。	
	バーティシリウム黒点病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌 表面に散布し、直ち に混和し被覆する。	

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数			
い　ち　ご	萎黄病 一年生雑草	60 ℓ	は種又は定植の 15日前 まで	1回	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	1回			
	萎黄病 ネグサレセンチュウ 一年生雑草				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。				
みょうが (花穂) みょうが (茎葉)	根茎腐敗病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。				
しょうが					予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。				
か　　ぶ	萎黄病 一年生雑草	40 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。				
さやえんどう 実えんどう	萎凋病	60 ℓ	は種又は定植の 10日前 まで	1回	所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	1回			
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 一年生雑草				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。				
キ　ャ　ベ　ツ	パーティシリウム萎凋病	40～60 ℓ						所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
	根こぶ病 一年生雑草							所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
は　く　さい	根こぶ病 根くびれ病 黄化病 一年生雑草	40～60 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。				
た　ま　ね　ぎ	乾腐病 黒腐菌核病 一年生雑草	60 ℓ	は種又は定植の 10日前 まで		所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。				
	乾腐病				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。				
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	80 ml /m ²			所定量の薬液を積み上げた土壌表面に散布し直ちに被覆する。				

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当たり使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
レタス 非結球レタス	ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40～60 ℓ	は種又は定植の 10日前まで	1回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	1回
	根腐病	60 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	ビッグベイン病 すそ枯病 一年生雑草					
ピーマン とうがらし類	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 萎凋病 一年生雑草	60 ℓ	は種又は定植の 15日前まで		所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	萎凋病				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	
	半身萎凋病				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
かんしょ	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40～60 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	つる割病	60 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
にんじん	しみ腐病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	40～60 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
トマト ミニトマト	萎凋病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	萎凋病 半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	
	半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
なす	半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	40 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 半身萎凋病 一年生雑草	60 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	半枯病				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数		
こんにゃく	根腐病	40～60 ℓ	は種又は定植の15日前まで	1回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	1回		
	ネコブセンチュウ 一年生雑草	40 ℓ			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。			
	乾腐病	60 ℓ						
	乾性根腐病 一年生雑草							
	根腐病				40～60 ℓ			
ご ぼ う	ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
さといも	乾腐病				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。			
に ら にら(花茎)	乾腐病 一年生雑草	60 ℓ	は種又は定植の10日前まで				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	
	乾腐病 葉腐病 一年生雑草						所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	ネグサレセンチュウ 一年生雑草				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
ブロッコリー	ネコブセンチュウ	40～60 ℓ	は種又は定植の15日前まで		所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。			
	一年生雑草				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
やまのいも	ネコブセンチュウ				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。			
	根腐病 一年生雑草				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
ばれいしょ	そうか病 一年生雑草	60 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
に ん に く	乾腐病 イモグサレセンチュウ 一年生雑草				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。			
	イモグサレセンチュウ				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。			
チンゲンサイ	ネコブセンチュウ	40 ℓ		は種又は定植の10日前まで		所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。		
	萎黄病	60 ℓ				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。		

作物名	適用病害虫・雑草名	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
しゃくやく (薬用)	根黒斑病	60 ℓ	は種又は定植の15日前まで	1 回	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	1 回
たばこ	立枯病		40 ℓ		秋期 (翌春植付け)	
	ネコブセンチュウ	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。				
花き類・ 観葉植物	萎凋病(フザリウム菌) 萎黄病(フザリウム菌) 球根腐敗病(フザリウム菌) 腐敗病(フザリウム菌) 葉枯病(フザリウム菌) 立枯病(フザリウム菌) 乾腐病(フザリウム菌)	60 ℓ	は種又は定植の15日前まで		予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	
	萎凋病(フザリウム菌) 萎黄病(フザリウム菌) 球根腐敗病(フザリウム菌) 腐敗病(フザリウム菌) 葉枯病(フザリウム菌) 立枯病(フザリウム菌) 乾腐病(フザリウム菌) 苗立枯病(リゾクトニア菌) 茎腐病(リゾクトニア菌) 葉腐病(リゾクトニア菌) 腰折病(リゾクトニア菌) 株腐病(リゾクトニア菌) 立枯病(リゾクトニア菌)				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ 一年生雑草	40～60 ℓ			所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	

作物名	使用目的	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
にら にら(花茎)	前作のにら又はにら(花茎)のネダニ蔓延防止	60 ℓ	前作の栽培終了後からは種又は定植の10日前まで	1 回	予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	1 回
					所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。	
	前作のにら又はにら(花茎)の古株枯死				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	
					所定量の薬液を土壌中約 15cm の深さに注入し直ちに被覆又は覆土・鎮圧する。	

作物名	使用目的	10 a 当り使用量 (原液として)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	カーバマナトリウム塩を含む農薬の総使用回数	
ト マ ト ミニトマト い ち ご ピーマン とうがらし類 きゅうり す い か メ ロ ン か ぼ ち や な す ほうれんそう は く さ い ね ぎ わ け ぎ あ さ つ き チンゲンサイ み ず な レ タ ス 非結球レタス だ い こ ン キャベツ ブロッコリー に ん じ ん た ま ね ぎ に ん に く さやえんどう 実えんどう ズッキーニ 花き類・観葉植物	前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	40～60 ℓ	前作の栽培終了後から残渣撤去まで 但し、は種又は定植の15日前まで	1 回	所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。	1 回	
	前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止	60 ℓ			予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。		
	前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止						
	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止						40～60 ℓ
	前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	60 ℓ					
	前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	40～60 ℓ					
	前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止	60 ℓ			集積後からは種又は定植の15日前まで		所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
	前作のきゅうりの褐斑病の蔓延防止						
	前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止						
	前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止						
	前作のネギの作物残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	40 ml / m ²					ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ほうれんそう	前作のほうれんそうのホウレンソウケナガコナダニ蔓延防止	40～60 ℓ	前作の栽培終了後からは種の7日前まで	所定量の薬液を土壌表面に散布する。			
				所定量の薬液を土壌表面に散布し混和する。			